

日本経済新聞2013年11月19日

■東京大学 古沢明教授らは、2つの光の粒（光子）が見えない糸でつながっているかのように振る舞う「量子もつれ」と呼ぶ物理現象を大規模に作り出す技術を開発した。従来の1000倍を超す規模で作る。スーパーコンピュータの量子コンピュータの実現に一步前進。英科学誌ネイチャーフォトニクス（電子版）に発表した。量子もつれは2つの光子が

量子コンピューター 実現に一步前進

離れても、片方の情報を書き換えた瞬間にもう片方も書き換わる。もつれの数が多いほど複雑な計算が可能になる。古沢教授は光ファイバーや鏡を組み合わせ、レーザー光からもつれた光子のペアをたくさん作り、さらに別のペアと次々ともつれる仕組みを考案。1万6000個の光子で量子もつれを作り出した。従来はオーストラリア・シドニー大学の14個が最高だった。